

「汝、姦淫（かんいん）するなかれ」

「姦淫してはならない。」（出エジプト記 20:14）

神様はアダムのあばら骨の一部を抜き取って女の人を造り上げられました。それは一体性を意味します。創世記 2 章 24 節には「こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。」と書かれています。

結婚は神様の前での誓約です。ですから、姦淫は夫婦の間の結婚の約束を破るだけでなく、神様との契約を破ることになります。

当時の偶像崇拜は、豊穡と多産を強調し、異教神殿に娼婦たちがいて、宗教の名によってみだらな性的な行為が公に行われていたのです。そのような異教の習俗と区別された生活を神様はご自身の民であるイスラエルに命じておられます。

レビ記 20 章を見ると、夫婦の関係から離脱した性的な乱れがいかに厳しく罰せられているのが分かります。神様はご自身が造った人間が性的な秩序を持つことが、人間らしく生きるために、そして神様との正しい関係と人間の共同体の幸せのためにいかに大事であるのかを強調しておられるのです。

殺人は故意的ではなく、事故によって起こることもあります。しかし、姦淫はそうではありません。自由が与えられた人間において、責任が問われる主体的な行為です。姦淫は神様が造ってくださった尊い自分と隣人を傷つけ、社会全体を乱れさせるものです。性的な問題は人間の倫理や道徳で制御できないぐらい大きな力で、私たちの世界を壊そうとしています。

マタイによる福音書 5 章 27 節から 32 節を見るとこのように書かれています。

「あなたがたも聞いているとおり、『姦淫するな』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。もし、右の目があなたをつまずかせるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。もし、右の手があなたをつまずかせるなら、切り取って捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に落ちない方がましである」。姦淫の本質が問われる厳しいお言葉です。

性的な誘惑と刺激が乱舞する、私たちの世界の中でだれがこのようなことを守って行けるのでしょうか。

この掟は、罪深い自分の弱さを神様により頼み、主と共に歩む者のみが守れるのです。

*** 共に祈りましょう。**

- ・神様に喜ばれる隣人との交わりができますように私たちを導いてください。
- ・性的な誘惑と刺激で満ちているこの世界で、家庭が守られ、特に若者が神様を知ることによって真実な人間関係を築くことができますように祈りましょう。
- ・主の体である教会が世の誘惑から守られ、また、聖なる生き方を示すことができますように祈りましょう。